

看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

2018.7作成

1. 改善計画

項目	現状・課題	対応指針				H30年度 具体的計画		
		H27.4	H28.6	H29.3	H30.3			
業務量調査	病棟や日々の業務量に格差がある	業務量に見合った人員配置や応援体制を整える				業務量把握と応援システムを整備する(全日)		
看護職員と他職種との業務分担	多岐にわたる業務により、看護ケアや業務に専念できない時がある	多職種との協働により、看護ケアが実践できる時間を確保する	薬剤師	持参薬確認 定数薬管理 定期処方・注射薬のセット	継続	後発薬品に関する照会・指導	薬剤部の対応時間が延長(20時まで)	継続
			リハビリ職種	業務分担を検討	継続審議	継続審議	継続審議	摂食障害患者に対するコンサルテーションの仕組みを作る
			臨床検査技師	採血業務 内視鏡介助	継続	継続	FFPの解凍は、臨床検査技師が行う。	継続
			臨床工学技士	業務分担を検討	作動チェック 機器の中央化	センサーマット 管理	除圧マットを中央管理とする。	継続
		その他	入院センターを設置し、対応を一本化する	入院目的や必要書類説明	診療録記載へ情報入力	入院病棟への案内	介入する患者枠を拡大。	専任者を配置。入院予約患者に対する療養支援計画を立案する
			外部委託により業務の効率化を図る	委託業者による病衣・タオルなどの管理	継続	管理物品の定数見直し	紙おむつをCSセットにする	継続
看護補助者の配置	看護補助者の数が少ない	実情に応じた配置数にする 人員増により効果的活用	急性期看護補助体制加算 25対1に変更	産休3名のため採用に向けて広報活動の充実	看護補助者の処遇改善を検討	正規雇用を見据えた採用形態に変更する	急性期看護補助体制加算 25対1(5割以上)とする	
	看護師が携わる事務的業務が多い	看護補助者が事務的業務を実施		補助者業務の洗い出しとマニュアル整備	業務分担について検討中	入院オリエンテーションや消耗品請求業務を担当。	継続	
	夜勤に対する負担感がある	夜間配置により患者ケアの充実を目指す		看護補助者の意向調査	看護補助者の変則2交代勤務導入	回復期リハ・地域包括ケア病棟にて夜勤を導入。	一般病棟における夜間配置を検討する	
短時間正規雇用者の活用	仕事と生活との調和が取れていない	勤務時間の短縮や配置場所を考慮し、働きやすくする	短時間 17名 部署考慮23名	短時間 16名 部署考慮22名	短時間 10名 部署考慮22名	短時間 6名 部署考慮 16名	意向調査を実施し、個別対応する	
多様な勤務形態の導入		安心して働ける環境を提供する	夜勤のシフト希望 雇用形態の選択 配置場所の考慮	継続	継続	継続	継続	
妊娠・子育て中配看護職	院内保育所がない	院内保育所の設置を検討する	院外保育施設との契約(病児保育)	継続	継続	看護師の活用実績あり	継続	
	妊娠中・子育て中は夜勤が負担となる	夜勤免除制度の活用	夜勤免除 4名	夜勤免除3名	夜勤免除0名	夜勤免除・回数制限者 12名	継続	
	育児の時間を確保したい	育児短時間制度の活用	短時間17名	短時間16名	短時間10名	短時間 6名	継続	
	負担の少ない部署への配置希望がある	配置場所を考慮する	部署考慮23名	部署考慮22名	部署考慮22名	部署考慮 16名	継続	
夜勤における看護業務の負担軽減	3交代2人夜勤であり、業務が煩雑である	夜勤ガイドラインに基づく体制整備	正循環に向け、変則2交代への転換推進	変則2交代への転換 1病棟あり	3交代1病棟のみ 夜勤 3人体制	全部署が変則2交代となる	長時間夜勤に対する改善策を検討する。	
		業務量を把握し、タイムリーに部署間応援ができる	部署間応援システム検討	4月からシステムの運用開始	継続	業務量を確保しているが、応援の実績はない。	継続	
		看護補助者との協働体制整備		夜間配置に向け意向調査	変則2交代 3病棟で実施	回復期リハ・地域包括ケア病棟にて夜勤を導入。	継続	